

令和5年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 大阪府北部流域下水道事務所	団体区分（混成の場合は複数☑） <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 下水処理場見学体験動画（エンジョイ・スタディ・チャンネル）の企画・制作	
責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏名：矢野 定男 所属：大阪府北部流域下水道事務所 電話：072-620-6672 E-mail： hokubugesui-g02@sbox.pref.osaka.lg.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 事務所職員 14名（プロジェクトチームを結成） ・企画、構成、撮影、音声、編集、アニメーション : 10名 ・声優（ヨドガワ博士、しずく、カンタ、ナレーション） : 4名	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） ・ After コロナ での出前講座や各種イベント等にも有効活用できるコンテンツとすること ※下水処理場見学体験動画「エンジョイ・スタディ・チャンネル」 https://www.pref.osaka.lg.jp/hokubugesui/douga/index.html ※大阪府北部流域下水道事務所公式チャンネル https://www.youtube.com/channel/UCM5Zgma_zYub2NGsPe0Qf9g ・普段何気なく使っている下水道の大切さを 気軽に楽しく学べるコンテンツとすること	
アピールポイント ・ コストパフォーマンスを実現!! 声優をはじめ、企画から制作、アニメーション、イラストもすべて職員の自主製作で圧倒的コストパフォーマンスを実現！ ・ レアな写真や動画を多数配信!! ドローンで空撮した貴重な写真や、通常では見学できない場所まで入って撮影したレアでリアルな動画を多数配信！ ・ 飽きさせない工夫! オリジナルキャラクターやクイズで、小学生から大人まで楽しく学べる工夫！	
要したコスト ・3万円 ※動画編集ソフトの購入費用のみ	

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

<動画制作の理由>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、現場見学の受け入れが困難に。
- ・学校等ではWEB授業が当たり前となり、動画は、教材や出前講座でも有効なツールに。

<動画の企画・製作>

- ・予算と製作期間を鑑み、企画から製作まで（※）全てを職員の手作り。
※ベテラン、若手職員が協力して、絵コンテやカメラワーク、各地ロケによる素材収集、関係者との調整など
- ・担当職員の特技を活かした役割分担や各自の業務の合間を活用できるようにスケジュールを調整するのはとても大変。

<視聴者を意識した内容づくり>

①【第一弾】ふしぎ・発見！～みんなの使った水はどこへ！？～

- ・専門用語は避けて、誰にでもわかりやすい言葉やイラストで
- ・キャラクターとクイズを効果的に活用し、楽しく下水道を学習
- ・施設の役割や仕組みがイメージしやすいアニメーションを多用
- ・下水処理に加え、浸水対策も紹介
- ・利用者の用途にあわせて、20分の全体版に加え、5分毎のショートバージョンを用意



②【第二弾】もっと知りたい！下水道の世界！！

- ・視覚的に楽しいコンテンツになるように、第一弾に引き続き、イラスト、クイズ、アニメーションを駆使
- ・下水道の歴史的経緯をはじめ、排水の注意点や料金の仕組みにもスポットをあてた啓発
- ・飛行機や新幹線ドクターイエローを間近で見られる一般開放施設（スカイランド）をアピール

成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

- ・大阪府北部流域下水道事務所公式 YouTube チャンネルの開設
➡動画投稿数計 8 本、合計再生回数 1,500 回超
- ・大阪府公式 X（旧 Twitter）「大阪府広報担当副知事もずやん」による PR
➡閲覧数 1 万人、いいね 223 件、リツイート 45 件、コメント 3 件獲得！
- ・大阪下水道広報ぷらっとホーム公式 X（旧 Twitter）による PR（夏休み期間中 5 回）
➡閲覧数 928 人、いいね 8 件、リツイート 3 件獲得！
- ・「下水道の日」に合わせた流域関連市による PR（豊中市、高槻市、茨木市、箕面市）
- ・大阪市下水道科学館 5 自治体コラボ企画「大阪冬の下水道まつり」での放映（来場者数 143 名）
- ・小学生向け下水道出前講座の充実化と効率化（6 小学校 516 名）
➡汚泥処理や浸水対策のコンテンツを充実し、現地対応職員数 6 名から 3 名へ縮小